

いのち まも たす 命を守り みんなで助かるために

1月17日は、「防災とボランティアの日」です。22年前に大都市

神戸を中心に阪神・淡路大震災が襲い、このとき、学生を中心と

したボランティア活動が活発化したことをきっかけに活動への認識

を深め、災害への備えの充実強化を図るために制定され、この日を

含む前後3日間が「防災とボランティア週間」と定められています。

大規模な災害は多くの命を危険にさらし、人々の暮らしを奪いま

す。被災者の方々は、その後の避難生活でも多くの困難に苦しみ、

なかでも高齢者や障がい者、子どもなど、いわゆる「災害

弱者」とされる人たちの困難はより大きなものになり、

特別な援助や配慮を必要とします。命を守り、みんな

で助かるためには、常日頃から地域のコミュニケーションづくりを

大事にしながら、近所とのつきあいを重ね、見守りの継続と備えを

大事にし、各自治会、各地域に合う助け合いや支援方法を自分事と

して考えていくことが必要です。

宇陀市では、災害に強いまちをめざして、防災計画を策定し、地域

の自主防災活動も支援しています。ひとりひとりが、災害に対する

意識を高め、防災・減災を地域密着で考えていくことで、ひ

とりでも多くの命を救うことができるのではないのでしょうか。



宇陀市人権啓発活動推進本部